

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(答えに字数指定のある問題では句読点や記号も一字と数えます。)

身体の問題というと、人はまず自分の身体を眺める。手を見、腕を見、さらには我が身を鏡に映しだしてみる。つまり、身体^Iというとき、人はまず個人の身体を思い浮かべるのだ。そしてたいは、どこかしら恥ずかしくなって、肩をすくめる。身体はaに属するのであって、bに属わけではないというわけだ。だが、ほんとうはそうではない。シグサや表情にしてもそうだが、共同体の基盤は身体にあると言っていいほどののである。

日常生活の随所にその証拠がころがっている。たとえば、人はなぜスポーツを観戦するのか。勝敗の行方を見極めたいと思うからか。そうではない。人の身体の動きに同調してみたいのである。相撲で、ひとりの力士が土俵を割りそうになりながら残すとき、見るものも同じように反り身になって相手の回しを握り締めているのである。だからこそ、手にA握るのだ。つまり、スポーツを見るものは、そのスポーツと一緒に戦っているのである。野球にしてもそうだ。投球が決まった一瞬、まるで指揮者に操られたように、会場の全体がどよめく。投手や打者の呼吸に、全観衆の呼吸が同調しているからである。それが人間の身体なのだ。

想像力といえば、意識の問題と考えられがちだが、そうではない。それはまず身体の問題なのだ。身体がまず他人の身体になりきるのである。その運動、その緊張、その痛みを分け持ってしまう。想像力の基盤は身体にあるとさえ言いたいほどである。

模倣^{もちまう}もまた身体の想像力のひとつと考えるといい。人は、歩き方、走り方、泳ぎ方を習うが、教科書によってではない。身体を介して習うのである。実際、子供は、教えるよりも先に真似ている。身体^Ⅳの想像力は、意識の想像力を上回る。稽古事の経験者ならば誰でも思いあたるだろうが、言葉による注意は、身体^①の想像力のきつかけにすぎない。

舞踊に関心を持つようになってはじめて、以上の事実^②に気づいた。人はなぜダンスを見るのか。何よりもまず身体そのものが、他人の身体と同調したいからなのだ。舞台を見ると、人は、ダンサーとともに踊っているのである。回転し、跳躍しているのである。だからこそ、見終えた後に、ココロヨい疲労を覚えるのだ。また、だからこそ、より美しく舞うもの、より華やかに踊るものに惹^ひかれるのである。スポーツにしても同じだ。人は、より強い、より速い、より美しいフォームに惹かれる。身体^③の想像力の限界を試そうとでもするように、人は舞台を見る。試合を見る。見ているのは目ではない。Cなのだ。

そういえば、昔はよく、尊敬する人物の肖像や彫像を机上に飾ったものだ。なぜか。見る^④ことが、全身的な行為であると信じられていたからである。意識の想像力以上に、身体^⑤の想像力が重要であることが、直観的にハアクされていたからだ。人物だけではない。たとえば雄大な光景は人を雄大にする。人は全身で見るのであり、見た瞬間、何よりもまず身体がその光景に同調しようとするのだ。

このように考えると、なぜ舞踊と遊戯が神事として誕生したかが分かってくる。舞踊と遊戯、すなわちダンスとスポーツは、おそらくその起

源をひとつにしている。いずれも、身体を介して、人間が b を成していること、共同体を形づくっていることを確認する行為にほかならなかったのである。神前で舞うとき、共同体の成員もまたともに舞うのだ。相撲にしてもそうだ。観客もまた力を尽くして戦うのである。たとえばツナヒきのような遊戯は、身体のこのような共同性をそのまま象徴していると言っている。しかも舞踊や遊戯は、身体を介して、人と人の共同性のみならず、人と自然の共同性をも教えたはずである。身体の想像力は、人と動物、人と自然のキョウウカイをも、やすやすと越えたはずだからだ。

(三浦雅士『考える身体』による)

問一 波線部ア～ケの漢字の読みををひらがなで答え、カタカナを漢字で答えなさい。

問二 「手に A 握る」の空欄に入る語として、最も適当なものを記号で選び、慣用句を完成させなさい。

ア 歯 イ 水 ウ 汗 エ 指

問三 空欄 a c に当てはまる語として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号には同じ言葉が入ります。)

ア 集団 イ 個人 ウ 意識 エ 身体

問四 傍線部①「言葉による注意は、身体の想像力のきっかけにすぎない」の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 他者からの注意は、身体の行動を制御すること。

イ 注意は、集団の同調意識を欠き、身体の不自由を生むということ。

ウ 言葉を発するという身体働きによって、意識を変容させるということ。

エ 個人同士の声かけは、集団意識を育ませること。

オ 意識に対しての働きかけは、身体習得を促す機会ではないということ。

問五 傍線部②「以上の事実気づいた」とあるが、このとき筆者が気づいた事実として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 身体は他人の身体と同調したいということ。
- イ 華やかに踊ることや美しいフォームに惹かれること。
- ウ 舞踊と遊戯が神事として誕生したこと。
- エ 人物の肖像や彫像を机上に飾ること。
- オ 子供が教わるよりも先に真似ていること。

問六 傍線部③「なぜか」とあるが、筆者はどのような理由だと考えていたか。四十字以内で理由を答えなさい。ただし、「尊敬」「同調」「自分の目標」を必ず用いなさい。

問七 傍線部④「このように」が指す内容として、最も適当なものを本文中の破線部Ⅰ～Ⅴから選び、記号で答えなさい。

- Ⅰ 身体というと、人はまず個人の身体を思い浮かべる
- Ⅱ 投手や打者の呼吸に、全観衆の呼吸が同調しているからである
- Ⅲ 身体の想像力は、意識の想像力を上回る
- Ⅳ 雄大な光景は人を雄大にする
- Ⅴ 共同体を形づくっている

問八 傍線部⑤「共同体の成員もまたともに舞うのだ」とあるが、その理由を説明した次の文の空欄に当てはまるように本文中の語句を用いて答えなさい。

舞踊や遊戯を見ている多くの人々はこれらの当事者に□から。

問九 本文より考えられる筆者の「共同」とはどのような意味か。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 他とともに過ごす時間のこと。
- イ 他と意志を共有すること。
- ウ 他を尊重し、他の生活に関わらないようにすること。
- エ 他のあり方を想像し、実感すること。
- オ 集団で、一心共同体となること。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(答えに字数指定のある問題では句読点や記号も一字と数えます。)

弓子は、中学三年生の現在、数学と理科の成績が低下したについて父に厳しく叱責され、母方のおじの家に行くつもりで家出をする。駅につくと電車が止まっていることに気づき途方に暮れる。

① 「横山弓子さんよね？ 太二くんのおねえさんの」

すぐとなりの女性に言われて、弓子はおどろいて跳びあがりそうになった。

「わたしのこと、おぼえてるかしら？」

「水野先生！」

反射的に大きな声が出てしまい、弓子はあわてて顔をふせた。

「うれしいわ、おぼえていてくれて」

太二の担任をしていたときにはもう五十歳を過ぎていたのだから、あと二、三年で定年のはずなのに、水野先生はあいかわらず元気そうだった。

「もう、イヤになっちゃうわよね。わたしはむかしの教員仲間と会って食事をしていただけ、みんなと別れて電車に乗ろうとおもったら、架線の点検かなにかで運転を見合わせてるっていうでしょ」

② そう言って肩をすくめると、水野先生は自分の住まいは五つ先の駅の近くののだとおしえてくれた。

「いまさっき、夫に車でむかえにきてくれるようにたのんだんだけど、三、四十分はかかるとおもうのよね。こんなにひとが集まっちゃって、暑いったらありやしない。誰か音楽でも鳴らさないかしら。」 A、お祭りみたいになっておもしろいのに」

もともと陽気な先生だが、それにしてもハイだとおもっていると、弓子は水野先生が少し酔っているのに気づいた。

「あら、バレちゃった。でもだいじょうぶよ、たいして飲んでないから。その証拠に、久しぶりに会うあなたのこともちゃんとわかったでしょ。」 ③ すっかりきれいになっちゃって。学校はどう？ 楽しい？」

水野先生はやさしい笑顔で弓子を見つめた。小学校の職員室で先生方に合格の報告をしたときに、水野先生がことのほかよろこんでくれたのを弓子はおもいだした。

④ 「とても楽しいです。仲のいい友だちも何人かいて」

とっさにとりつくろったものの、弓子のかえって悲しくなった。 ④

「誰かと待ち合わせ？」 B、そんな感じでもないみたいね」

このままでは家出をしようとしていることを見ぬかれてしまうとおもったが、逃げだそうにも周囲はひとでいっぱいだった。

「そうだわ。夫に電話をして、横山家までむかえにきてもらえばいいんだわ。それまでお家で休ませてもらうことにして。おとうさんとおかさんは、うちにおられるんでしょう？」

弓子がうなずくと、水野先生はうれしそうに話しつづけた。

「太二くんにはさんざん手こずらされたんだし、それくらいのことはさせてもらってもいいわよね。……ウソよウソ。もちろん冗談よ。わたしが別の学校に勤めているならまだしも、在籍している小学校の児童のお宅に酔っ^⑤つてあがりこんだのがバレたら、戒告処分じゃすまないわ」

水野先生はそう言って、^⑦しかめ面をつくってみせた。

「でも、太二くんは本当にいい子に育っているわよね。おとうさんも、おかあさんも、お元気で。そうそう、去年の運動会ではおとうさんにお世話になったのよ。あら、聞いてないの？ わたしがうけもっていた三年一組にロニーくんっていう子がいてね……」

それから水野先生はフィリピン生まれの男の子が水筒にコーラを入れてきてしまったことをめぐってクラスメイトとケンカになったさいに、父が実に見事にとりなしたのだと教えてくれた。

十ヵ月もまえの出来事なのに、水野先生は細かなことまでおぼえていて、弓子はおどろいた。

「本当にすてきなおとうさんね。もちろん、おかあさんも」

——そうなのだ。水野先生が言うとおりの、おとうさんもおかあさんも本当にすばらしいひとなのだ。それなのに、わたしだけが二人をいらだたせて、悲しませて……。

泣いてはいけないとおもっても、弓子は涙があふれてとまらなくなった。

「あら、たいへん。弓子さん、どうしたの？ わたしがなにかよいなことを言ったのかしら。すみません、ちょっと通してください。弓子さん、むこうで休みましょう」

脇を支えられて、弓子は水野先生と一緒に駅前のひとごみをぬけだした。

「お店ならすわって話せるけれど、知りあいに聞かれたらこまるわよね？」

水野先生にきかれて、弓子は小さくうなずいた。

「それじゃあ、おうちまで送っていくあいだに、歩きながら話すのはどうかしら。^⑧わたしで力になれるなら、いくらでも助けてあげるから」

弓子には、水野先生のもうしでを断るだけの気力もなかった。^⑨「C 夜道を家へむかいながら、中学受験をきっかけにして生じた両親との行きちがいを話した。」^⑩ D、水野先生にきかれるままに、理数系科目で悪い点数をとったのはわざとであることまでうちあけてしまった。

【語注】 注1 「科目」の意。（本文中の表記は原文による）

問一 二重傍線部①「大きな」、②「ない」、③「きれいに」、④「とても」、⑤「酔っ」、⑥「ながら」、⑦「わたし」、⑧「悪い」の品詞名を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません)

ア 動詞 イ 形容詞 ウ 形容動詞 エ 名詞 オ 連体詞 カ 副詞 キ 助動詞 ク 助詞

問二 傍線部①「肩をすくめる」、②「ことのほか」、③「手こずらされた」、④「しかめ面」の本文中での意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①「肩をすくめる」 ②「ことのほか」 ③「手こずらされた」 ④「しかめ面」

ア 威勢よく行動する ア 予想以上に ア 助けられた ア 無表情

イ 相手の行動に怒る イ ほどほどに イ こだわりを持たされた イ 悲しい表情

ウ 仕方ないとあきらめる ウ 予想通りに ウ かわいがられた ウ 不快な表情

エ 自信満々に取り組む エ 言うまでもなく エ 困らせられた エ 真面目な表情

問三 空欄 A 〃 D に当てはまる語として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません)

ア そして イ でも ウ さらに エ そうしたら

問四 傍線部①「横山弓子さんよね? 太二くんのおねえさんの」について、ここに使われている修辞法を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 擬人法 イ 反復法 ウ 倒置法 エ 比喻法 オ 体言止め

問五 傍線部①「悲しくなった」とあるが、弓子が悲しくなったのはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 電車が止まっていたためにおじの家に行くことができなかったから。

イ 水野先生の人を見る目の鋭さから、家出の件がばれてしまうと感じたから。

ウ おとうさん、おかあさんがすばらしい人であると再認識し、自分のダメさに気づいたから。

エ 期末テストの数学と理科の点数がわるかったことを父に厳しく叱責されたから。

オ 水野先生の言葉に対して表面上、問題ないように見せてしまったから。

問六 傍線部①「それくらいのこと」の指すものを本文中より十二字で抜き出し答えなさい。

問七 傍線部⑧「うちあけてしまった」について、このときの弓子さんの気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 久しぶりに再会した水野先生に家出の件を悟られ、反省する気持ち。

イ 水野先生のやさしさに触れ、自分のことを話さずにはいられない気持ち。

ウ 中学校に対する不満を水野先生に聞いてもらいたいという気持ち。

エ おとうと（太二）にくらべ、自分のダメさに嫌気がさした気持ち。

オ フィリピン生まれの子の話を聞いて、おとうさんのすばらしさを改めて感じた気持ち。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、^{注1}天文博士安倍晴明^{注2}と言ふ^{注3}陰陽師ありけり。古にも恥ぢず、やむごとなかりける者なり。幼き時、^ア賀茂忠行^アと言ひける陰陽師に随ひて、昼夜にこの道を習ひけるに、いささかも心もとなき事無かりけり。

しかるに、晴明若かりける時、師の忠行が下渡に夜行に行きける供に、歩にして車の後に行きけり。忠行、車の内にしてよく寝入りにけるに、晴明見けるに、^②えもいはず恐しき鬼ども、車の前に向ひて来たりけり。晴明、これを見て驚きて、車の後に走り寄りて、忠行を起して告げければ、その時にぞ忠行驚きて覚めて、鬼の来たるを見て、^③術法^④をもつてたちまちに我が身をも恐れ無く、共の者どもをも隠し、平らかに過ぎにける。その後、忠行、晴明をば去りがたく思ひて、この道を教ふる事、^⑤瓶の水を移すがごとし。しかれば、つひに晴明、この道に付きて、公私に仕へられて、いとやむごとなかりけり。

（『今昔物語集』による）

【語注】 注1 天文博士…天文の観測を行う役職。

注2 陰陽師…天文学の知識を基に、まじないなどを行う役職。

注3 下渡…昔の京都を二分した、南側の地区のあたり。

問一 波線部④「恥ぢ」、⑤「やむごとなかり」、⑥「習ひ」を現代かなづかいに改めて、すべてひらがなで答えなさい。

問二 二重傍線部A「随ひ」、B「走り寄り」、C「来」、D「見」、E「教ふる」の主語として適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 安倍晴明

イ 賀茂忠行

ウ 共の者ども

エ 鬼

問三 傍線部①「心もとなき事無かりけり」、②「えもいはず」、⑤「やむごとなかりけり」の現代語訳として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

①「心もとなき事無かりけり」

②「えもいはず」

⑤「やむごとなかりけり」

- | | | | | | |
|---|----------------|---|-------------|---|------------|
| ア | はつきりしないことは無かった | ア | 胸がいっぱいになるほど | ア | 止めることが無かった |
| イ | 許しがたいことは無かった | イ | 驚くこともできないほど | イ | 大切にされ出世した |
| ウ | 納得いかないことは無かった | ウ | 何とも言えないほど | ウ | 病気になるなかった |
| エ | 不安なことは無かった | エ | 言うに足りないほど | エ | やむを得なかった |

問四 傍線部③「清明をば去りがたく思ひて」とは「清明のことを手放したくないと思って」と訳しますが、忠行がそのように思った理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 清明に鬼を呼び出すことができるほどの術法の才能があったから。
- イ 清明が機転を利かせて鬼の手から自分だけ逃げることができたから。
- ウ 清明が機転を利かせたお陰で鬼に見つからずに助かったから。
- エ 清明に鬼から気づかれないようにする術法の才能があったから。

問五 傍線部④「瓶の水を移すがごとし」とは、本文の内容を踏まえるとどのような意味だと考えられますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 忠行が自分の技術や知識を余すところなく清明に伝えたということ。
- イ 清明が忠行の教えを忠実に守り、そのすべてを吸収したということ。
- ウ 忠行が自分の持っている知識の全てを慎重に清明に伝えたということ。
- エ 清明が今回自分の経験したことを、忠行にすべて報告したということ。

問六 『今昔物語集』は平安時代末期に成立した説話集ですが、これと同じ種類の文学作品を次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 平家物語 イ 徒然草 ウ 宇治拾遺物語 エ 古今和歌集 オ 古今著聞集

四 次の①～⑩の四字熟語の意味として適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません。)

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| ① 暗中模索 | ア 良い面もあるが悪い面もあって、完全ではないこと。 |
| ② 以心伝心 | イ いろいろな違いや種類があること。 |
| ③ 一長一短 | ウ ある人の行いに対してそれ相応の報いがあること。 |
| ④ 自業自得 | エ 物事の手がかりがなく、困ってしまうこと。 |
| ⑤ 千差万別 | オ またとないよい機会。 |
| ⑥ 一朝一夕 | カ ほんのわずかな時間。 |
| ⑦ 温故知新 | キ 立派な人物は立派になるまで時間がかかること。 |
| ⑧ 五里霧中 | ク 手がかりのないまま、いろいろとやってみること。 |
| ⑨ 大器晩成 | ケ 過去を研究して、それをもとにして新たな知識を見いだすこと。 |
| ⑩ 千載一遇 | コ 言葉にしくなくても、お互いの思っていることが相手に通じること。 |

五 次の①～⑩のことわざの示す意味として適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません。)

- | | |
|------------------------------|------------------------------------|
| ① どんぐりの背比べ | ア 人から伝えられるより、自分で確認するほうが良くわかること。 |
| ② 急がば回れ | イ どんな名人でも、失敗することがあること。 |
| ③ 知らぬが仏 | ウ 大差のないこと。 |
| ④ 百聞は一見にしかず | エ いくら言っても効き目のないこと。 |
| ⑤ 犬も歩けば棒に当たる | オ 同時に複数のことをしようと欲張ると、どちらも成功しないこと。 |
| ⑥ 馬の耳に念仏 | カ 知らないでいると平気でいられること。 |
| ⑦ 河童の川流れ <small>かわづな</small> | キ 両者が争っているうちに、関係ない第三者が苦勞なく利益を得ること。 |
| ⑧ 二兎追うものは一兎をも得ず | ク 立派な理屈を言いながら、自分のことには実行がともなわないこと。 |
| ⑨ 医者の不養生 | ケ 思いがけない幸運に出会うこと。 |
| ⑩ 漁夫の利 | コ 遠回りでも安全な道を行くほうが結局早く着くこと。 |

